

酪農場で起こりうるSARAリスクのうち、メジャーな要因をいくつか挙げてその対策を考えたいと思います。もし皆さんの農場でSARAが疑われるような事象がある場合、以下の5つのポイントをチェックしましょう。

#### 1. 設計 2. 製造 3. 給餌・餌押し 4. 採食行動 5. カウコンフォート

##### <設計>

搾乳牛の飼料設計に関する推奨値は確かにありますが、農場ごとに違うDMI(乾物摂取量)やSARAリスクを加味し、乳牛の健康性を担保しながらその牛群で達成可能な乳量設定の飼料設計をするのが設計者の腕の見せ所だと思います。

TMRセンターのように決まった設計の飼料しかない場合、危惧されるのはこの点ではないかと思います。数値的には理想的だけどその群にとっては無理のある設計になっていないでしょうか？農場ごとにSARAリスクは全然違います。



##### <製造>

TMRの製造工程でもいくつかのSARAリスクは発生します。

##### ①サイレージの水分含量

粗飼料調整時の天候に恵まれにくい根室という地域では、どうしても高水分サイレージの利用がついてまわります。高水分サイレージは、ほんの2～3%の水分量の変化が現物給与量の増減に及ぼす影響は大きくなります。

水分78%のサイレージが、あるとき水分80%に変化したとき、はたしてどれくらいサイレージの現物給与量を変化させる必要があるのでしょうか？

答えは現物給与量を10%増やすです。ほんの2%の水分量の変化により現物給与量は10%も増やさなければならないわけです。もし変化に気づかず給与量を変化させなかったら・・・粗飼料不足の危険なTMRになってしまうかもしれません。

はたしてどれほどの人がサイレージの水分をこまめに計測しているのでしょうか？



##### ②ミキサーの計量器は正確に動いているか？

TMRはミキサーの計量器の数値を基にして造っています。そして誰もがその計量器が正しく動いていると信じています。すくなくとも半年に一度はロードセルが正しく動いているか調べましょう。

調べ方は500kgの肥料袋をミキサーの上のいくつかの位置に乗せ、計量器が正しく500kgを示すか、25～50kgくらいのをミキサーの四隅に乗せ合計が正しく表示されるか、などがあります。



次号に続く